

R4 全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (国 語)

◎・・・優 ○・・・良 △・・・可 コメント可

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	改善状況
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 「話す」「聞く」活動については、最後まで集中して聞くことや話すことに自信がもてない児童に対する指導。 「書く」活動については、ひらがなを正しく表記できない児童に対する個別指導。 生活経験の違いなどから語彙力に差がある。語彙を増やす手だて。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な話型を提示し、自分の言葉で表現することに慣れるようにしていく。「話し方・聞き方」の指導を継続する。 間違えやすい表記については、習熟のための繰り返し学習を取り入れる。 単元ごとに関連書籍をそろえ、読書に取り組み、「読むこと」への興味関心を高める。 本の読み聞かせなど、たくさんの言葉に触れる機会を増やす。 	<p>○</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>○</p>
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 「話す」「聞く」活動については、大事なことを落とさずに話したり聞いたりする手だて。 「書く」活動については、片仮名・句読点の表記や助詞の使い方などができていない児童に対する個別指導。 文章の内容や事柄の理解について正しく読み取らせる手だて。 	<ul style="list-style-type: none"> 2人組での1分間スピーチや少人数グループでの話し合いを取り入れ、自分の考えを伝えたり、相手の考えを受け止めたりして聞くようにしていく。 表記については、習熟のための学習を繰り返し行う。 文章の理解が深まるよう、一問一答式の発問や思考を必要とする発問を授業の中で取り入れていく。 	<p>△</p> <p>○</p> <p>○</p>
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 説明文において、段落の要点を押さえて読むための指導。 言語について関心・意欲をもてる授業の工夫。 話のまとまりを考えて、段落に分けて書こうとする指導。 大事なことを落とさずに聞こうとする態度を育てること。 友達の見解を聞いて、自分の考えを深めたり、広げたりできるようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 中心となる語や文を捉えて文章を読めるよう、板書を工夫する。 言語については、辞書を活用して語彙を増やすなどの工夫をする。小テスト、書き取りの練習に繰り返し取り組めるようにする。 話の段落や文の構成を意識して、書くことを繰り返し指導する。 日常的に聞きたい・聞かなければならないという意識がもてるような活動を取り入れる。 小グループによる話し合いの時間を効率的に活用して、考えの深まりや広がりを狙う。 	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>◎</p>
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 「読む」活動について、物語文では、叙述を基にして読むための指導の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の疑問をもとに発問を工夫し、文のどこからそう考えたのか叙述を根拠にした話し合いをさせる。 	<p>○</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明文において、段落の要点を押さえて読むための指導。 ・ 文章を書く際に書き方を定着させ、語彙を増やす指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心となる語や文を捉えて文章を読めるように似たような説明文で要点を押さえて読む練習をさせる。 ・ 辞書を引く機会を増やす。 ・ 書き方の型を示す。 	<p>○</p> <p>△</p> <p>○</p>
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文を書く際につながりを意識して書かせること。 ・ 「話す・聞く」では話題を広げる指導。 ・ 文章の読み取りでは、要旨を捉えて読むための指導。 ・ 漢字や言語の習得の個人差。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推敲する時間を設け、文を見直す習慣をつけさせる。 ・ グループワークを意図的に取り入れる。司会を輪番制で経験させる。 ・ 決められた文字数で要点だけをまとめる練習を普段から設ける。 ・ 小テストや辞書の積極的な活用を図る。 	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>◎</p>
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文の構成や効果を考えて書く指導。 ・ 要点を押さえて話す指導。 ・ 説明文においては、目的に応じ、内容や要旨を捉えながら読むための指導。 ・ 漢字や言語について継続的な指導や授業の工夫はしているが、知識の定着に個人差があること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返し考えをまとめる機会を意図的に設定する。 ・ スピーチメモを活用した交流の場を設定するなど、話す場面を増やす。 ・ 文章構成を考えたから文を書く機会を設ける。 ・ 説明文を読み取るときのキーワードや段落の関係のつかみ方を確認し、必要な情報を押さえて要旨を捉える指導をする。 ・ 授業や宿題での継続指導や、辞書の活用などの工夫をする。 	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>◎</p> <p>◎</p>